

### 第3回沼津港の将来を考える有識者会議 議事録（概要版）

- 
- ・日 時：平成27年12月2日（水）午後15時00分～午後17時00分
  - ・場 所：ふじのくに千本松フォーラム プラサヴェルデ 402 会議室
  - ・出席委員：4名 公益社団法人沼津牧水会 林 茂樹理事長  
一般財団法人みなと総合研究財団 大村 哲夫顧問（会長）  
東京工業大学大学院 社会理工学研究科 齋藤 潮教授  
東京女子大学 現代教養学部国際社会学科 竹内 健蔵教授

以下、策定委員会から出席

- 東海大学 海洋学部環境社会学科 東 恵子教授（策定委員）
  - 静岡県 難波 喬司副知事（策定委員）
  - 沼津市 光林 治産業振興部長（策定委員 副市長代理）
- ・事務局：静岡県港湾企画課、沼津土木事務所港湾課
  - ・配布資料：次第、委員名簿、座席表、有識者会議設置要項  
沼津港みなとまちづくり推進計画（案）（本紙（A4）、概要版（A3））  
県民意見への対応（主な意見（A3）、一覧（A4））

---

#### 【第3回沼津港の将来を考える有識者会議要旨】

##### ■沼津港みなとまちづくり推進計画（案）について

（大村会長）

- ・有識者会議、策定委員会での意見がしっかりまとまっている計画となっている。
- ・「第一市場」の機能の中で、漁→水揚げ→調理→食事の一連の流れを体験させる機能とあり、素晴らしい検討事項だと思うが、他事例はあるのか。金沢のいきいき魚市を訪れたことがあるが、見ていても楽しく、もちろん食べてもよかった。  
→（難波副知事）千葉の保田では定置網の獲れたての魚を漁港の裏の食堂で食べられる。一連の流れ全てを体験することは難しいかもしれないが、断片的な体験ができる事例はいくつかある。
- ・（竹内委員の沼津港の利用者についてターゲットを絞るという意見を受け）清水港には中国人を多く乗せたクルーズ船が寄港しているようだが、その利用者が沼津港へ訪れるということはあるのか。

→(難波副知事) クルーズ船の来訪者が沼津港にくることは少ないが、静岡空港からの外国人の来訪者は多くある。ただ、外国の方々をターゲットとした場合、爆買戦略がいつまで続くのかは疑問であり、10年先を見据えた柔軟な整備が必要である。

#### (齋藤委員)

- ・内港に船舶機能を残し、具体的な計画となっていることに満足している。
- ・港口公園と西側物揚場の間の民地に一部歩行者動線として遊歩道を計画できないか。  
→(光林産業新興部長)戦前より沼津市の土地を住宅地として貸し付けている状態なので、今後借地権等を解決していく中での検討事項とさせていただく。
- ・将来計画の内港を横断している施設については、船舶の利用のある内港には苦しいのではないか。イベント時の仮設程度でもいいのかと思う。  
→(難波副知事)西側の賑わいとの動線で必要とあれば、議論の上で設置を検討するが、必要なくなるケースも想定し、取り外しが容易なものを検討する必要があると考えている。

#### (林委員)

- ・しっかりまとめていただいた計画を地域の人や沼津市がいかに協力して実現していくかが重要である。
- ・地域の人が気持ちよく使える港であってほしい。
- ・動線については、周辺の素晴らしい資源のとの連携も考えられており喜ばしい。
- ・地域の活性化に繋がるよう、実現に向けて進んでいってほしい。

#### (竹内委員)

- ・全てを実現することが理想であるが、総花的ではなく優先順位をつけ手法や目的別に施策を進めていくことがより効果的ではないか。例えば、ターゲットをどう設定するか。また、防災と景観は矛盾しないか。働きがいという言葉が先に出ているが、港の活性化が前提の言葉なので、まずはお客にどう来てもらうかが重要ではないか。  
→(事務局)ターゲットは、沼津に訪れる方・住んでいる方と考えている。優先順位は、ロードマップ(案)として示し、短期・中期・長期に分け個別に集中して取組んでいく。  
→(難波副知事)防災と景観は、外港の防潮堤に対して耐震強化を検討中であるが、緑化等の対応は検討しており、景観を阻害する要因はないと考えている。  
→(難波副知事)ここでの働きがいのあるという表現は、働いていてよかったなど思える雇用を作ることである。お客と店側が価値を共有しお客が喜んでもらう姿を見て、店側も自分の仕事に誇りを持つという意味合いで書かせていただいている。

- ・全てを実現しようとするすると矛盾が生じるので、ターゲットを絞る手法、または柔軟なインフラ整備を念頭におく必要がある。
- ・沼津港を主目的として訪れる方をターゲットにするのか、伊豆地方への中継地点として寄ってもらう方をターゲットにするのかで戦略は変わってくる。

#### (東策定委員)

- ・この計画は今までの5年間の集大成でよくまとまっている。今後、地元の方々と手を取り合って、港や地域のネットワークを駆使してどう展開していくかが重要になってくる。

### ■総括

#### (林委員)

- ・沼津は伊豆口と言われた様に交通の便がよく、伊豆等多くの地域との繋がりから発展してきた場所であるので、今後も広域的な連携も踏まえた計画の実現に向けて、沼津市が真剣に取り組んでいってくれることを願っている。

#### (齋藤委員)

- ・戦術のエレガントさが重要であり、どこかでやったような模倣的なものではなく、デザイン力の質の向上を求められる。
- ・利害関係から離れた中立な立場の人材によって行政・民間・デザインを上手く繋げてもらうシステムの構築が必要である。
- ・千本浜の防潮堤の改良は、防災面・景観面に考慮して進めてほしい。

#### (竹内委員)

- ・素晴らしい計画なので、是非実現して欲しいと思い辛口なコメントを言わせていただいた。同じように活躍している観光地が多くある中で、沼津港が勝ち残っていくためには、大変なことを直視することが必要である。
- ・ニセコの雪が海外の方に人気が出て非常に貴重な存在になったのと同様に、沼津にも隠れた資源が眠っているかもしれない。これについては外国人観光客へのアンケート調査も必要かもしれないが、そのような可能性を踏まえ、長期的に見て行ってほしい。

#### (東策定委員)

- ・港というのは港らしい景観をいかに見せていくかが重要であり、沼津港は駿河湾や水産業の営みが核となって港を形成していると思っている。
- ・地元の方々と協力し合って、観光という視点でも多くのニーズに応えられるような港として展開していけるよう進めて行って欲しい。
- ・批判もあるかと思うが、港らしさを積み重ねて行っていただきたい。

**(光林産業新興部長)**

- ・この計画を受け、街を元気にするには沼津市が頑張らなくてはいけないと承知している。
- ・地元の方に愛されるようなPRを頑張っていかなければいけない。
- ・官民協力し、役割分担の中で、この計画を進めていきたい。

**(難波副知事)**

- ・先生方の高い見識と客観性をもったご意見をいただきここまでまとまった。
- ・どのような計画にも異論が出て、難しい場面もあるかと思うが、県も市も行政として責任を持ってやり遂げていきたい。

**(大村会長)**

- ・「みんなで創り、みんなが集う「ガーデンポート」」という題があるが、長野県の小布施町というところでは市民と観光客が溶け込んでいる雰囲気のある場所である。沼津港がその港版として、市民と観光客と一緒に街づくりをしていける場となってほしい。
- ・この計画を実行される地域の方々に魂を吹き込んでいただき、一丸となって目標に向かって活動が進んでいってほしい。

**■今後の対応**

**(事務局)**

- ・今回の委員の意見を踏まえたうえで、計画案の再度修正を行い、大村会長に確認頂き、年内を目途に市へ答申頂き、公表する予定である。
- ・計画を実現するための組織の立ち上げはこれから県から調整に入らせていただく。